



繋がりを絆へ

大城 冨和

「国際協力活動とは」との問いに、研修後の私はどんな答えを出すのだろう。

先進国入り目前のマレーシアに対して、日本は人材や技術を育てる為の教育及び開発援助を行っている。私が想像していた途上国支援とは少し違っていたが、夢や目標に向かって邁進するマレーシア人の姿は日本人のそれと重なり、私も頑張ろうと思うことができた。国の成長に合わせて求められる支援も変化するのは当然のこと。「日本の支援が一方通行にならず、両国にとってメリットに繋がる支援を模索することが大切」と JICA の方は語る。自分が行ってきた国際協力活動は自己満足になってはいないだろうか。JICA の国際協力活動を目の当たりにすることで、自分の考えの甘さに気づくことが何度もあった。

「相手の国の文化を知り、人々との絆ができて、初めて本当に必要な支援が見えてくる」。それを感じたのが同世代の学生との交流である。文化を体験し互いの国や夢について話すことで、私たちはすぐに打ち解けた。彼らが複数の言語を状況に応じて使い分け、当たり前のように互いの違いを認め合う姿は印象的であった。つまり、例え短時間でも「繋がる」ことで相手に親しみを感じ理解し合えるのだ。彼らとは SNS でも繋がることができたので、交流を続け、繋がりを絆へと深化させていきたい。

研修を終えた今、思い出すのはマレーシアの人々の優しさと素敵な笑顔だ。国際協力活動とは、互いに支え合い成長するために手を取り合うことではないか。彼らの笑顔を中心に、自分にできる小さな一歩をこれからも積み重ねていこう。